

国際ロータリー会長：バリー・ラシン

「インスピレーションになろう」

第2560地区ガバナー：川瀬 康裕

「自らのストーリーを作りましょう」

会 長：高橋研一

「将来みんなのためになること

これからのロータリーのために

力を込めて課題にチャレンジしよう！」

幹 事：松山浩仁

S A A：外山裕一

## 三條北ロータリークラブ週報

例会日2018.11.20 累計No.1524 当年No.18

例会日：火曜日 12:30~13:30

例会場：三條ロイヤルホテルTel34-8111

事務局：三條市本町3-5-25 三條ロイヤルホテル内

TEL 0256-35-7160 FAX0256-35-7488

HP : <http://www.sanjo-nrc.org>

### 本日の行事：

「東京電力柏崎刈羽原子力発電所見学」

◆本日の出席：63名中31名(内記帳8名)

◆先々週の出席率：63名中51名80.95%  
(前年同期81.54%)

◆10月の出席状況：63名・例会数4回  
平均出席率81.74%  
前年同月81.92%

◆今週のメイクアップ(敬称略)

14日三條RC 樋口 勤、石黒隆夫

15日燕 RC 落合益夫

17日米山奨学生学友会総会 中原尚彦

◆本日の記帳受付(敬称略)

三 條 RC 五十嵐晋三、山田富義、小林敏信

三條南 RC 星野健司、丸山 智、永井篤利

金子佐也子

三條東 RC 名古屋孝徳

りました。10:40 プログラムは各表彰に進み、私達のクラブが皆様のご寄付と坂本会員の大口寄付のおかげで、ガバナー賞ロータリー財団寄付クラブ表彰で第1位に表彰されました。昼食休憩時間には会長会が行われ、ガバナー選出の分区輪番制の運用について審議されました。開始年2020年~2027年の間、輩出分区は2020年度は第一分区、私達のクラブの第4分区は2023年度です。賛成多数で決定されましたが、少数の分区からは反対意見も出され、今後の改善検討、地区内での議論を深めたいとの事で閉められました。午後の部13:00からは記念講演「ロータリーと東京2020大会レガシー」講師ミズノ株式会社相談役水野正人様よりず〜っと笑顔で分かり易いお話をさせていただきました。まだまだ報告しなければならないことはたくさんありますが、三條ロータリークラブの松永一義会長からお礼の言葉が感謝をこめて述べられたことをお伝えして終わります。今回ご協力いただきました会員の方々、大変ご苦労様でした。ありがとうございました。さあ、それでは本日の柏崎刈羽原子力発電所視察に向かいましょう！

### 会長挨拶：高橋研一 会長



皆さんこんにちは、本日11月20日(火)第16回目の例会挨拶をさせていただきます。

11月10日、11日の2018-19年度国際ロータリー第2560地区・地区大会の準備に当クラブより30名の方々にご協力いただきました。誠に感謝します。

大会のお手伝いも金子太郎実行副委員長指示のもとスムーズに運び、準備万全となり、国際ロータリー2018-19年度のテーマ「インスピレーションになろう」で始まりしました。

第1日目はワシントンホテルで13:30から地区指導者育成セミナーでは地区委員長の報告があり、その後14:45からロータリー財団の講演、米山記念奨学会の講演が行われ、演題「未来志向の韓日関係」では、駐新潟大韓民国総領事館 総領事 ジョンミエ様より素晴らしい講演がありました。関川博地区幹事より閉会の挨拶があり、第1日目は終わりました。

翌11日(日)は、燕三條地場産業振興センター1Fで第2日目の大会が始まりました。この日は皆さんより、早朝7時に会場に集まっていたいただき、受付の準備等段取りのもとスムーズに行われ、午前9:30に開会となり

松山浩仁 幹事：11月2日に父が急逝いたしましたので、理事会・例会・地区大会と出席することができなくなり、皆様には多大なご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。葬儀の際には会長はじめ多数の方々からご会葬いただきまして、誠にありがとうございました。無事法要を終ることができました。まだ喪が明けていないので祝事には参加できませんが、他の事業等には幹事として出席させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

# 今日の行事：「東京電力柏崎刈羽原子力発電所見学」

職業奉仕委員会 羽賀一真 委員長

本日は移動例会にご参加いただきありがとうございます。かねてより計画しておりました柏崎刈羽原子力発電所の見学にこれから行くところでございます。賛成であっても見学はしていただきたいと思ひますし、反対であっても見てから反対していただこうと思ひます。こういう趣旨で今回の見学を計画いたしましたので、是非目を皿にしてつぶさに見学し、率直なご意見を東京電力様におっしゃっていただけたらと思ひます。本日はよろしくお願ひいたします。



## ◆バス車中、東京電力ホールディングス(株)白井様より

11月1日のケーブル火災発生の経緯と調査、今後の対応についての説明がなされました。又、総合訓練に対して規制庁からC評定を受けていることについての説明と、改善策等も話されました。

◆質疑応答では  
見学終了後のシアターホールや帰りのバス内では、大変白熱した質疑応答となりました。



その概要をお伝えします。

東京電力様（以下、東電）「福島原発事故発生を心よりお詫びいたします。我々はその反省を踏まえ最大限の事故再発防止に努めております。皆様よりお寄せいただいたアンケートを拝見いたしました。再生可能エネルギーはもちろん開発に取り組んでいく必要がありますが、まだまだそれだけでは電力の安定供給には至っておらず、世界的に脱原発に向かっていけるとまでは言えないのではないかと思います。例えばフランス国内では高速増殖炉でのミスは最先端技術である以上つきものであると認識されていますが、日本国内ではたった1度のナトリウム漏れでもんじゅが廃炉に追い込まれました。国民の総意とは言え日本の原子力技術がこれで衰退していくかと思うと実に惜まれることです。」

クラブ会員 A（以下、会員）「では原発が安全だと言うなら、なぜ東京の真ん中に原発を作らないのか？莫大な送電設備や送電ロスがあるにもかかわらず、なぜわざわざ東京から遠い福島や新潟に原発を作ったのか？」

東電「原発は、安全を『目指している』ものであり、『安全だ』とは言い切れません。やはり危険なものだからです。」

会員 A「では危険なものは、東京ではなく福島や新潟だったら、かまわない、ということですね？」

東電「・・・いいえ、そういうことでは・・・」

会員 B「地元の経済効果というものも大きいのでは？」

東電「おっしゃるとおりです。原発誘致によって立地する地元で約数千人もの雇用が生まれましたが、全号機停止によって、その人たちが失業に追い込まれました。」

会員 C「北朝鮮のミサイルが飛んできたらどうするんですか？」

東電「我々は民間企業なので想定内の情報収集までしかできず、防衛戦力は自衛隊や警察や海上保安庁などに委ねるしかありません。」

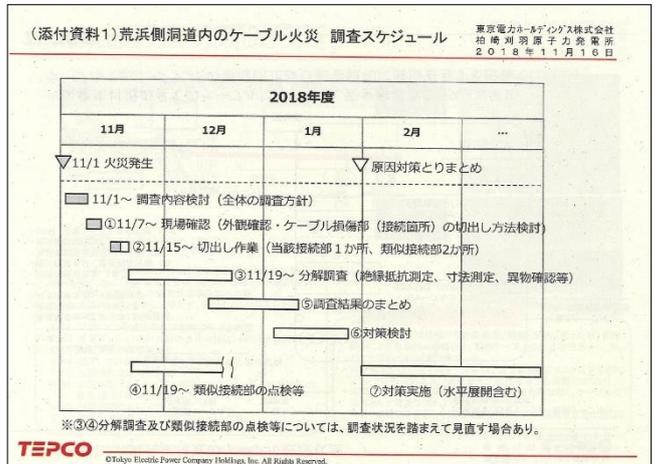
会員 C「あなたたちは、そうやっていつもミサイルでも津波でも想定外だったなどと言うから国民の信頼を失うんですよ。想定が甘かったと認めるべきだ。」

「・・・誠に申し訳ございません・・・。」

会員 D「でも原発最前線の現場の人たちは、がんばっておられますよね。想定が甘いのは電力会社の本社の偉い人たちや偉い政治家たちなんですよ。」

東電「誠に恐縮です。」

など、かなり緊張感のある質疑応答が行なわれました。



◆サービスホールにて





KASHIWAZAKI KARIWA NUCLEAR POWER STATION  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 サービスホール  
 ご来館記念  
 2018年 11月 20日